

平成29年8月8日  
環境創造局政策課

## 平成29年度環境に関する市民意識調査の結果について

環境創造局では、市民の環境に対する意識や市政に対する満足度、要望等を把握するアンケート調査を平成21年度から実施しています。このたび29年度の結果がまとまりましたのでお知らせします。

### 1. 結果概要

- (Q39) 優先して取り組んでほしい環境施策の上位は **緑の保全・創出** (33.2%)  
**地球温暖化対策** (29.5%)  
**横浜らしい景観の保全** (27.6%)  
**ごみの減量・リサイクル** (22.7%)  
**生活環境の保全(公害対策)** (22.3%)
- (Q40) 防災・減災と連携して取り組むべき環境施策は **ハザードマップ活用に向けた普及啓発** (62.3%)
- (Q35) 横浜産農畜産物を購入したことがある市民は **68.8%**  
●(Q36) 購入理由としては、「**新鮮な農畜産物を購入したい**」(66.1%)が最も多い
- (Q1) 横浜の環境が「良い」と感じている市民は **39.1%**
- (Q28) 生物多様性の危機を身近な問題としてとらえている市民は **68.8%**
- (Q12) 地域の環境活動へ参加意欲のある市民は **70.5%**  
年代別だと、20代が57.2%、30代が64.9%、40代が67.0%、50代が75.7%、60代が79.6%  
と年代が上がるほど参加意欲が高い
- (Q6) 関心がある環境問題の上位は、**大気汚染**(55.4%)、**地球温暖化対策**(54.4%)、**水質汚濁**(52.1%)
- (Q18) 環境の情報を得る手段は、**テレビ**(58.4%)、**市の広報誌等**(48.3%)、**新聞**(43.0%)が多い。  
ただし、20代は「**ブログやツイッター、SNS等**」が「テレビ」に次ぎ「新聞」と並ぶ手段となっている

### 2. 調査概要

- (1) 調査方法 インターネット調査(民間企業の登録モニターによる)により実施  
横浜市の人口構成比に基づき、市内在住の20歳以上の計1,000人から回答
- (2) 調査期間 平成29年6月28日～7月4日
- (3) 調査項目 40項目(裏面参照)
  - ・結果概要:別添資料の通り
  - ・全調査結果:横浜市ホームページで公開(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/chousa/>)

#### お問合せ先

環境創造局政策課長 奥野 修平 Tel 045-671-2686

## 平成29年度 環境に関する市民意識調査 項目一覧

(1) 環境問題に対する関心と行動	
Q1.	横浜の環境の現状についてどのように感じているか
Q2.	横浜の環境は10年前と比べてどのようになったと感じているか
Q3.	市内の満足度
Q4.	環境行動の実践状況
Q5.	環境に対する関心や行動
Q6.	関心のある環境問題や環境活動
Q7.	環境行動を実践するうえで難しい点、行動できない、行動しない理由
Q8.	環境に配慮した行動の後押しとなるもの
Q9.	環境の保全と生活の便利さ・快適さについての考え
Q10.	環境の保全と家計の負担についての考え
Q11.	環境への配慮が感じられる企業やその商品についてどのように感じているか
(2) 地域の環境活動への参加	
Q12.	地域の環境活動に参加したいと思うか
Q13.	どのような形態の活動に参加したことがあるか、参加したいと思うか
Q14.	どのような活動や取組に参加したことがあるか、参加したいと思うか
Q15.	どのような機会等があれば地域の環境活動に参加するか
Q16.	地域の環境活動に参加しない、あるいは参加できない理由
(3) 環境問題に関する情報収集	
Q17.	環境問題や環境活動に関して、必要な情報は得られているか
Q18.	環境の情報を得る主な手段は何か
Q19.	横浜市環境創造局で、情報を発信するためにツイッターを利用していることの認知
(4) 温暖化対策に関する設問	
Q20.	家庭でのCO2排出削減・省エネ行動を進めるための補助ツールの認知
Q21.	横浜市風力発電所(ハマウイング)の認知
Q22.	エコドライブにおいて実践している内容
Q23.	ヒートアイランド現象について、日常的に強く感じるようになったこと
Q24.	熱中症になった時間帯と場所
Q25.	熱中症と診断された時の状況
Q26.	現在、熱中症対策として心がけていること
(5) 生物多様性に関する設問	
Q27.	生物多様性という言葉の認知度
Q28.	生物多様性の危機が身近な問題と思うか
Q29.	「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」について、特に必要と思う取組
(6) 水と緑に関する設問	
Q30.	身近に緑を感じられる環境があるか
Q31.	公園や森林、水辺の広場など身近な自然環境に足を運ぶ頻度
Q32.	緑に関する横浜市の取組について、成果を感じているもの
Q33.	横浜駅周辺など都心部に緑や水辺が多くないことについてどのように考えるか
Q34.	横浜市が雨水貯留タンクや宅内雨水浸透ますの設置に補助金制度を設けていることの認知
(7) 食と農に関する設問	
Q35.	横浜産の農畜産物を購入したことがあるか
Q36.	農産物直売所やその他の場所で横浜産の農畜産物を購入しようと思う理由
Q37.	市民農園で農作業を体験してみたいと思うか
(8) 市の環境関連施策の満足度と優先度	
Q38.	横浜市が現在行っている取組への満足度
Q39.	今後、横浜市に優先的に取り組んで欲しいこと
Q40.	防災・減災対策として優先的に取り組むべき環境施策

全調査結果は横浜市ホームページで公表します(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/chousa/>)

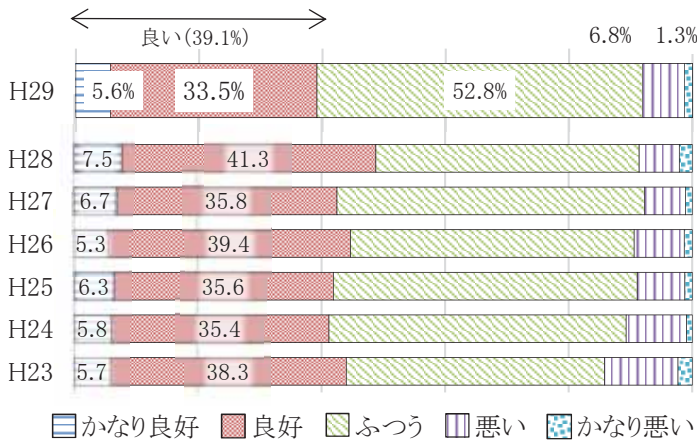
# 平成29年度 環境に関する市民意識調査 結果概要

全調査結果はホームページで公表します

## 環境問題に対する関心や行動について

- ▶ 横浜の環境の現状について、「かなり良好」および「良好」が39.1%。
- ▶ 生活の便利さ、快適さよりも「環境の保全を優先」と考える市民が62.1%。
- ▶ 関心のある環境問題、「大気汚染」、「地球温暖化対策」、「水質汚濁」などが上位を占めている。
- ▶ 市民の実践率が最も高い環境行動は「ごみは分別して出す」で89.7%が「常に」、「ある程度」実践。
- ▶ 環境問題や環境活動に関して、必要な情報が「あまり得られていない」「まったく得られていない」市民が79.2%。継続した情報発信が必要。

### 横浜の環境の現状について(Q1)

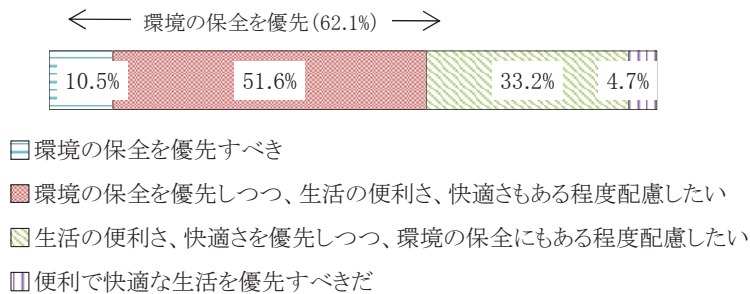


### 実践率の高い環境行動(Q4)

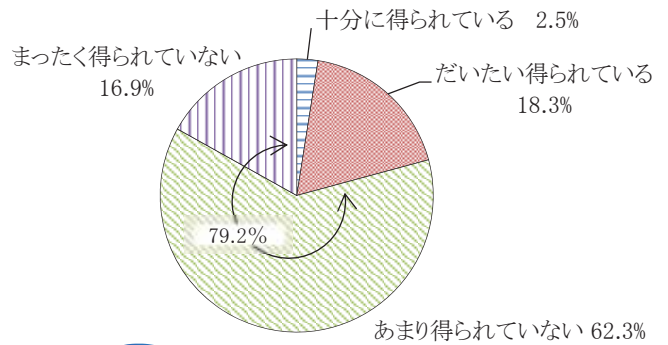
(数値は、「常に実践」、「ある程度実践」している人の和)

1位	ごみは分別して出す	89.7%
2位	食用油を下水(排水口)に流さない	78.3%
3位	食品ロスを出さないよう気を付ける	75.7%
4位	車の運転や音響装置の使用にあたり騒音を出さない	70.5%
5位	クールビズやウォームビズなど、季節に合わせた服装を選択する	66.9%

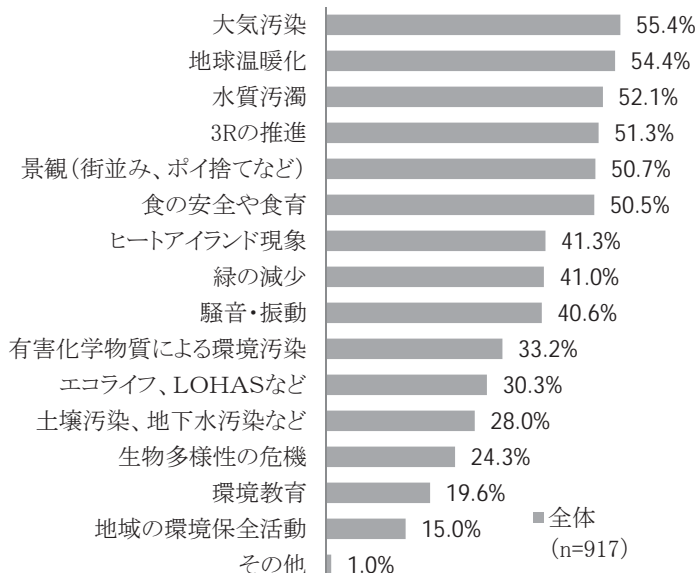
### 環境の保全と生活の便利さ、快適さについて(Q9)



### 環境問題や環境活動に関して必要な情報は得られていますか(Q17)



### 関心のある環境問題は(Q6) (複数回答可)



## Q&A

### 環境に関する情報を得る方法は？ 職員が自らツイッターでつぶやいている!?

広報よこはま(毎月1日発行)や、各区役所、市民情報センターなどに配架されているチラシなどで、環境に関する情報をお知らせしています。

6月は「環境月間」で、環境に関するイベントが数多く紹介されているのでぜひご覧ください。

また、Twitterでも情報発信しています。環境関連のイベントや皆さんのエコライフに役立つ情報を我々職員が発信しています。こちらもぜひチェックしてみてください。

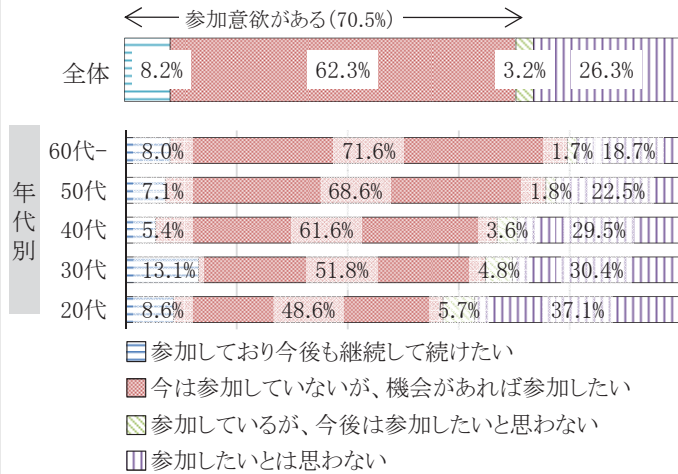


横浜環境情報  
@yokohama\_kankyo

## 地域の環境活動への参加について

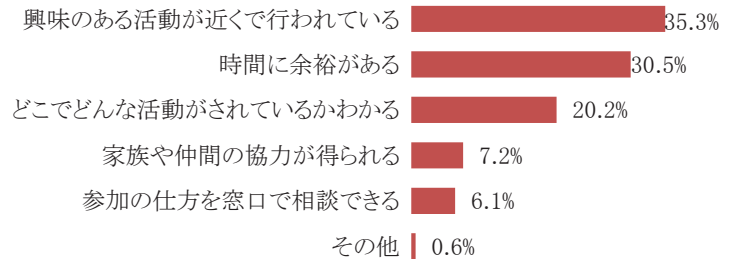
- 地域の環境活動へ参加意欲のある市民が7割以上、年代が上がるほど意欲が高く、60代以上は20代の約1.4倍。
- 「機会があれば参加したい」人の35.3%は「興味のある活動が近くで行われていれば」参加する。
- 「機会があれば参加したい」人は「花や緑を育てる活動」「公園・道路などの清掃活動」などに興味を持っている。
- 環境の情報を得る媒体は「テレビ」「市などの広報誌」「新聞」が多い。ただし20代においてはブログやツイッター、SNSなどが新聞に並ぶ手段となっている。

### 地域の環境活動に参加したいと思うか(Q12)

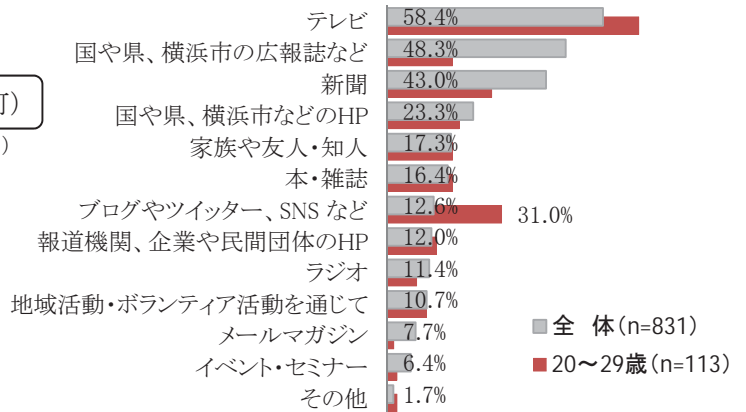


### どのような機会があれば参加するか(Q15) (複数回答可)

(Q12で「今は参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方(n=623)



### 環境の情報を得る主な手段は(Q18) (複数回答可)



### どのような環境活動に参加したいと思うか(Q14) (複数回答可)

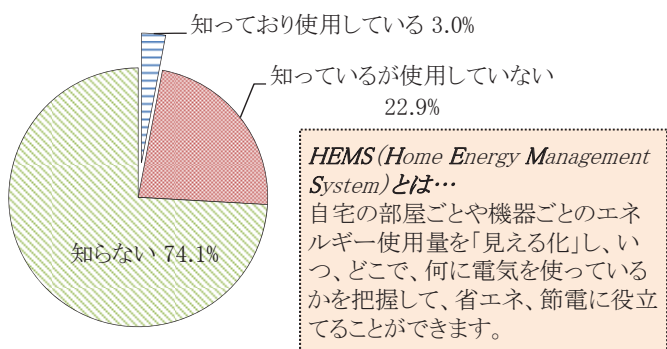
(Q12で「今は参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方(n=623)の回答から抜粋)

順位	活動や取組	割合
1位	花や緑を育てる活動	47.7%
2位	公園・道路などの清掃活動	43.2%
3位	水辺をきれいにする活動	30.8%

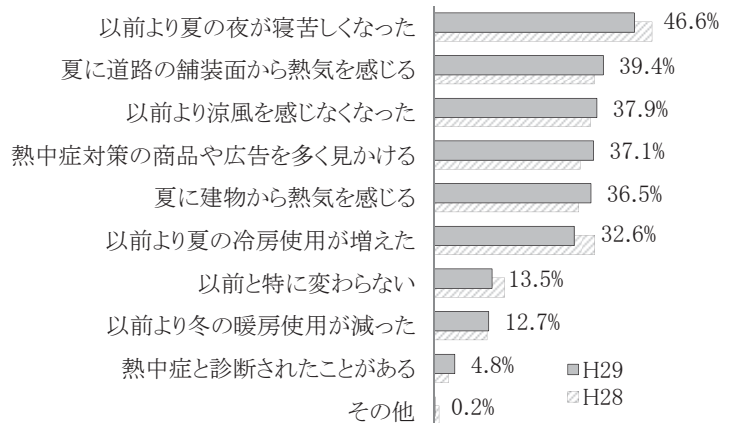
## 地球温暖化対策について

- 住宅での地球温暖化対策で、省エネ補助ツールの1つのHEMS(ヘムス)。使用している人は3.0%と依然として低い。
- 熱中症対策として心がけていることの最多は「こまめな水分補給」。熱中症経験者は「冷感インナーや冷却スプレー等」も利用している。

### 省エネ補助ツールのHEMSを知っているか(Q20)



### ヒートアイランド現象で日頃強く感じるものは(Q23) (複数回答可)



### 熱中症対策として心がけていることは(Q26) (複数回答可)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体(n=1000)	こまめな水分補給	適切なエアコン利用	適切な服装で行動	日傘や防止の利用	信号待ちなどで緑陰や日陰を利用
熱中症経験者(n=48)	こまめな水分補給	適切な服装で行動	日傘や防止の利用	適切なエアコン利用	冷感インナーや冷却スプレー等の利用

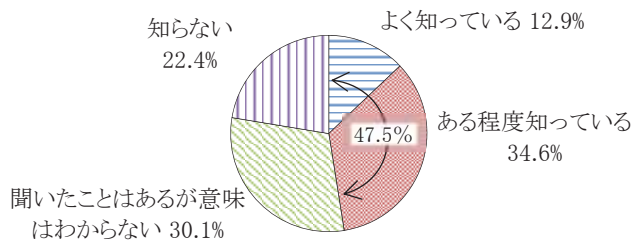
(熱中症経験者とはQ23で「熱中症と診断されたことがある」を選んだ方を指します)



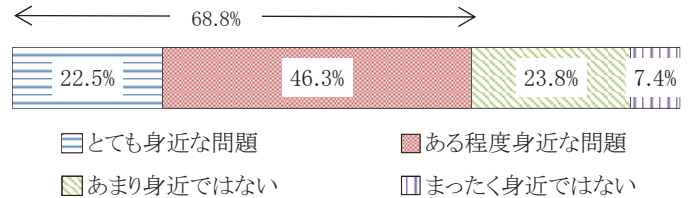
## 生物多様性について

- ▶ 「生物多様性」の言葉について、「よく知っている」「ある程度知っている」市民は47.5%。
- ▶ 生物多様性の危機を「とても身近な問題」「ある程度身近な問題」ととらえている市民が68.8%。
- ▶ 市の生物多様性の取組で特に必要と思うものは「川、水辺の整備」、「外来生物への対策」が上位で昨年度と同じ。

生物多様性という言葉について(Q27)



生物多様性の危機(開発や乱獲による生き物やその生息域の減少など)を身近な問題と思うか(Q28)



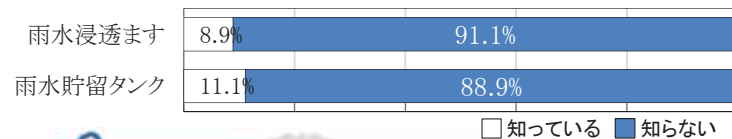
生物多様性の市の取組で特に必要と思うものは(Q29)(複数回答可)

1位	2位	3位	4位	5位
生き物のすむ川、水辺の整備 (64.0%)	外来生物への対策 (57.0%)	都市部の緑の創造 (46.5%)	希少な生き物の保全 (39.8%)	土地の購入や契約などによる残された自然環境の保全 (33.3%)

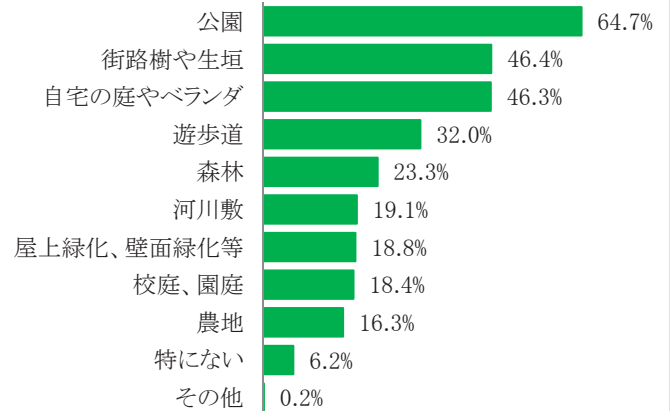
## 水と緑について

- ▶ 自然な水循環の改善に効果的な「宅内雨水浸透ます」や「雨水貯留タンク」。設置の助成制度を知らない人は、ともに約9割。継続した普及啓発活動が必要。
- ▶ 身近に緑を感じる環境としては「公園」が最多で昨年度同様となっている。

雨水貯留タンクや宅内雨水浸透ます設置の助成制度の認知(Q34)



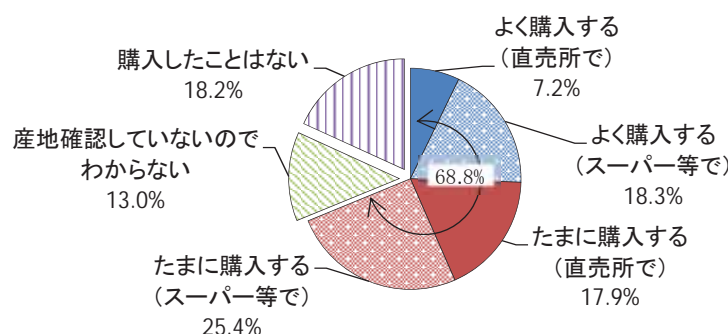
身近に緑を感じる環境はあるか(Q30)(複数回答可)



## 食と農について

- ▶ 横浜産農畜産物の購入歴がある市民は68.8%で、購入場所は直売所よりもスーパー等の直売所以外の方が多い。
- ▶ 購入理由として最も多いのは「新鮮な農畜産物を購入したい」で昨年同様となっている。

横浜産農畜産物を購入したことがあるか(Q35)



横浜産農畜産物の購入理由は(Q36)(複数回答可)

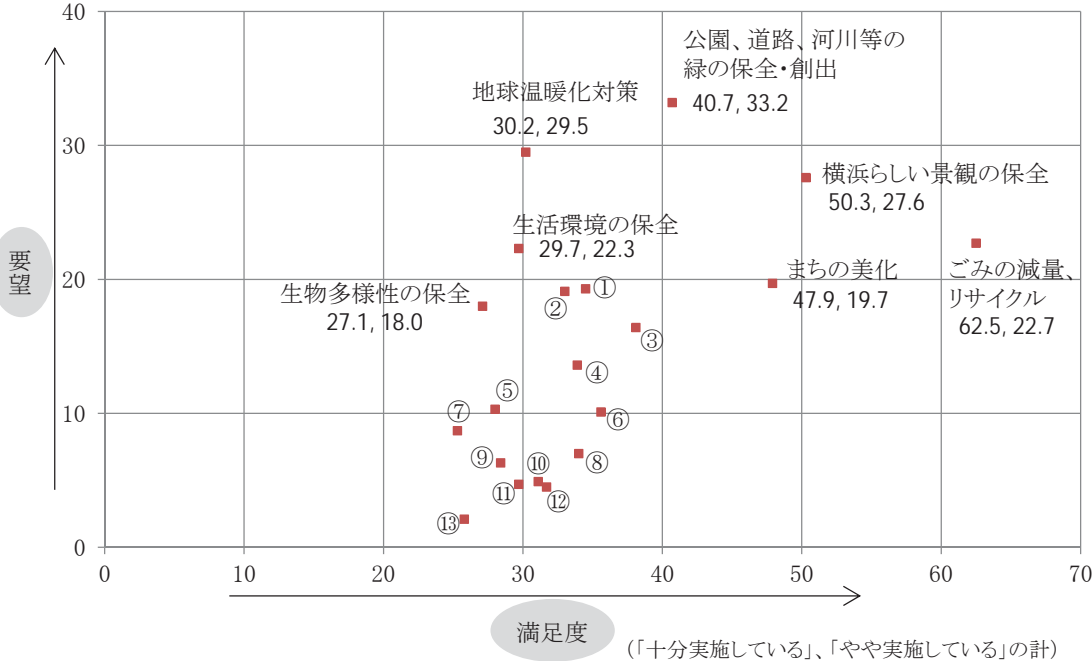
1位	新鮮な農畜産物を購入したい	(66.1%)
2位	おいしい農畜産物を購入したい	(47.3%)
3位	農畜産物を安く購入したい	(41.3%)
4位	地元の農家を応援したい	(41.1%)
5位	生産者の顔が見える安全で安心な農畜産物を購入したい	(30.7%)

## 市の環境施策について

- 優先的に取り組んでほしい施策は、例年同様「緑の保全、創出」、「地球温暖化対策」、「横浜らしい景観の保全」が上位となっている。
- 「ごみの減量、リサイクル」の取組への満足度が62.5%と最も高くなっている。
- 満足度が低く要望が高い項目としては「地球温暖化対策」、「生活環境の保全」があげられる。

### 市の施策の満足度と要望 (Q38、Q39)

優先して取り組んでほしい

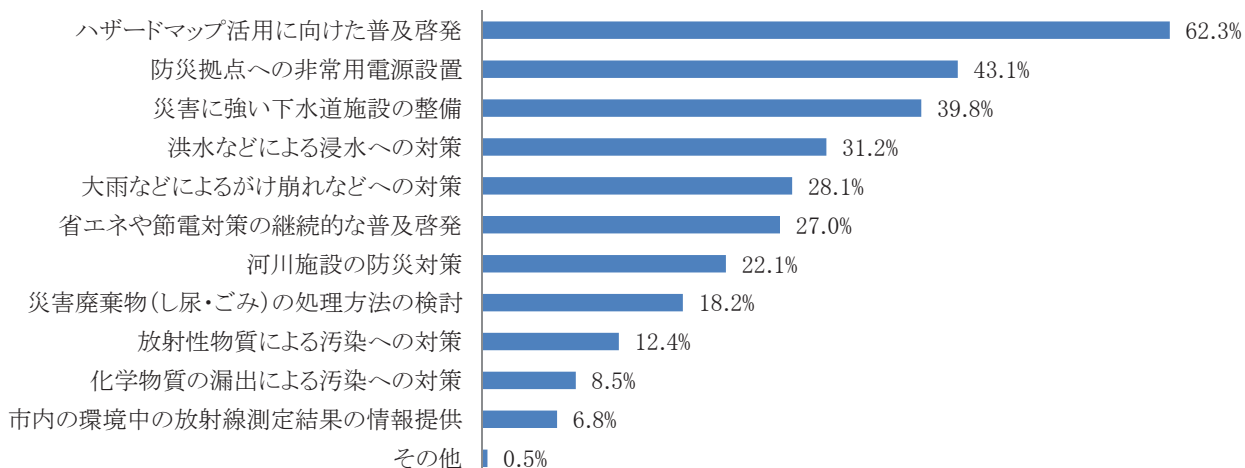


- ① 省エネ、新エネ利用の取組
- ② 緑の創出(都心臨海部)
- ③ 郊外部のまとまった緑の保全
- ④ 水循環機能の強化
- ⑤ 次世代自動車の普及
- ⑥ 道路整備、再開発事業等における環境配慮
- ⑦ 化学物質の適正管理
- ⑧ 農業の推進
- ⑨ 農地の保全
- ⑩ 環境教育の推進
- ⑪ 環境活動への支援、協働
- ⑫ 環境技術の海外展開
- ⑬ 環境配慮型製品の普及

## 防災・減災につながる環境施策の取組について

- 市民が最も優先的に取組むべきと考えている取組は、ハザードマップの活用に向けた普及啓発。
- 災害に強い下水道施設の整備、洪水などによる浸水対策なども要望が高い。
- 引き続き、環境に関するハード防災対策を着実にを行うとともに、ハザードマップの普及啓発などソフト防災対策を推進し、ハードとソフトの両面から防災・減災につながる環境施策に取組む必要がある。

今後、横浜市が防災・減災の取組として優先的に環境施策で取組むべきと思うことは(Q40) (あてはまるもの3つ回答)



- 浸水(内水・洪水)ハザードマップはこちら→<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/gesui/naisuihm/>  
大雨時に想定される下水道や水路に起因した浸水区域や水深などの様々な情報をまとめたマップです。すでに公表されている洪水ハザードマップ(河川の氾濫による浸水想定区域)を参考図として併せ、浸水(内水・洪水)ハザードマップとしています。
- 横浜市防災情報Eメール(横浜市総務局危機管理室)  
横浜市では、地震震度情報、気象警報・注意報等を始めとする防災情報をEメールで配信するサービスを行っています。このサービスを携帯電話等で活用することにより、防災情報をいち早く入手することができます。災害時への備えとして、ぜひご登録ください。※登録はこちらから→[entry-yokohama@bousai-mail.jp](mailto:entry-yokohama@bousai-mail.jp)(空メールを送り、登録してください)